

東亞醫學

卷頭言

大陸醫療對策の積極的意義

(一)

一月三十一日及二月八日の二日間、政友代議士猪野毛利榮氏が當局に對して、皇漢方醫學の振興が國內には現下の國民體位向上の必要性に對して、清新なる解決の意圖と方法を注入し、東亞の建設に對しては日滿支の提携親善を計る上に根本的の主要義たるをあげて、政府の意圖を質す所ありたるは、氏の先覺的識見と、眞執徹底せる態度とに滿腔の敬意を表するものである。これに對し、興亞院總裁柳川中將が率直に、現在西洋流に墮せる日本醫學の缺點とかくの如きの醫學そのまゝを以てしては、既に有する歐米の勢力支配を驅逐して、眞の東亞の解放建設を期し得られざることを認めると共に新しき建設的醫學に充分の理解と熱心を有せらるゝことを示されたるは我民族の將來の爲に喜ぶべきことである。これに反し、廣瀬厚生相の答辭は稍事體的認識に對する缺陷を曝露し、醫療施設、醫育制度についても、その根底にまで溯つて批判し、その哲學、方法、思想に於て、現行制

度に重大なる缺陷を有して居ることを認識せられざるが如き感を抱かしむるものがあつたのは、我等の甚だ遺憾とする所である。

(二)

抑も日滿支の提携、興亞の建設等のは口頭禪として唱ふるに至つて容易なものである。併し乍ら唇齒の間にあるべき日華の兩民族が今次の如く干戈の間に相見えざるを得ざるに至りたるはもとよりその原因一二ではあるまいが、我國の教育——從つて醫育もこの中に在り——理想の貧困によること大である。如何なる處如何なる人においてその信頼を得るは一朝一夕のよくする所ではない。然に我國人が從來支那に至りて事に當るを見るに、此處に腰をすへ根を下すといふ例の甚だ少ないのは第一に相互の眞の理解を得ることの出來ぬ原因の尤なるものであつた。

歐米を崇拜し、歐米の後塵を拜するに急であつた我國の教育は、支那に於てその傳統のよきものは發見し、その長所を認め、その國士を自分が生涯の使命と事業を捧

定價 一部十錢 送料三錢
一ヶ月一回二十錢(送料共)
東京市豊島區目黒町二ノ一五五
編輯發行 小柳賢一
東京市牛込區新小川町二ノ七
發行所 東亞醫學協會
電話牛込二七三二番
振替東京一九四三〇

げて餘りあるの地として受取らず却つて、非文明、野蠻、殆んど輕蔑すべきものとしてさへも教育されたのである。「國は人に依つて貴く、人は法に依つて貴し」とか會つて、我國の文化の師匠であつた漢土は今や一顧にも價しない蠻地となされたのである。我日本人は只歐米の模倣をなし、その糟粕をなめれば事足りたのである。理想に燃える青年が何んで斯くの如きの地に至り得よう。行くものは私利我慾の盲者が大多數を占めやがて年々に兩國國民の心に打越え難き溝渠をうがつたのであつた。

(三)

斯くの如き無理想は今や即座に止揚されなければならぬ。我等は我等の過去に有したるものは、殊に皇漢醫學の如きは、その根本の哲學的組織に於て、如何なる他の哲學にも勝れたるものなるを確認しなければならぬ。その治術の如きは仁術としてそれ自身の手に愛と平和と秩序を確立する高遠なる倫道の體現する聖業とをたるを顯示しなければならぬ。斯くの如き高遠なる理想が少くとも醫育の根幹をなし之によつて訓陶せられたる醫師が大陸に進出し新東亞建設の礎石として大陸の到る處に五〇年、六〇年とその生涯をうち込んで我等日本國民の持つ理想は、全人類が——從つて日華の兩民族は、先づ第一に、相互に信頼

し、相互に理解し、相互に尊敬してその生を樂しみこの地上に眞實の平和なる世界を打建てることにあるを知らしめなければならぬ。斯くて始めて誤れる共產主義、迷へる三民主義の咒縛より中華民を解放することが可能なのである。

(四)

支那に於て三民主義が相當多數の國民の支持を得て今日の勢力をなしたるは、軍力を以て我國に挑戦するに至つたもの、或は現に相容るべからざる共產主義と抱合して、最後まで抗日の叫んで居る狂信者が存在するもの、一面に於ては、支那に生活苦に喘ぐ多くの民衆が存在するが故である。防共滅蔣——或は掃共滅黨といふとも、單によき理論を掲げて、彼等主義者と理論闘争を試みて議論の上で勝つた所で到底決定的に、民衆を彼等から切離すことは不可能である。結局の處は我等が呈示する新東亞の道義的秩序——社會は、理論的に自由主義、共產主義より勝れるのみでなく、實際に又、支那の民生を古き不合理なる諸種の制約より解放し、その日常の生活殊に生命の愉快を實踐してやるもののでなければならぬ。この意味に於て我等が主張し、我等が研究し更に多くの社會の人々に支持を要求して居る處の東亞醫學は、その基礎をなす哲學と云ひ又實際に行ふ治病の方法の優秀性と云ひ、新東亞建設の巨大なる一幹たることを信じて疑はないものなのである。

目次

卷頭言 大陸醫療對策の積極的意義	猪野毛利
先覺猪野毛利代議士大陸醫療對策を闡明す	矢數道明
現下に適應する漢方醫學復興私案	小岩井淨
本誌に寄せられたる諸家の感相	三好修一
藥草狩りピクニツクを提唱せよ	代田文誌
報恩感に立つて	八七叟武藏卓
日滿支心の連絡	大塚敬節
祝發刊	大塚敬節
中國漢方醫學の現況と日華提携に就いて(完)	龍野一雄
拒殖大學東亞醫學專門部設立趣意書	大塚敬節
蟲様突起炎の話(二)	柳谷素靈
戰爭は文化の母	石原保秀
私方穴「肋膜炎の灸穴」使用實例	
第三回拓大漢方講座開講豫告	
河豚中毒と其療法	
北支中支へ特派員を派す	
梅原忠弘氏逝去さる	
二月例会寫眞	
三月例会廣告	
協會研究の漢方藥新形式にて製品化の上發賣さる	
東京及横濱優良品販賣會立上る	
東亞醫學協會々則	
庶務部報告	
各種會合記事	
天津便り	西 欽也
編輯後記	

先覺者猪野毛代議士

大陸醫療方策を闡明す

一月三十一日及二月八日兩日衆議院豫算委員會に於て政友會代議士猪野毛利榮氏は厚生大臣興亞院總務長官との間に、方醫學復興、大陸醫療方策に付き左の如き質問應答を試みこれが正道を闡明された。

猪野毛代議士 文部大臣、厚生大臣、興亞院總裁に質疑を對し度い。徴兵検査の結果、又教育方面から見て、國民體位が下がつて居る。これ衛生設備を我國が誇つて居つて、何故、體位が向上せられぬのみならず、反對に年々低下するのや。

廣瀬厚相 國民體位の問題に付きましたは、前々から色々の議論があつた所なるも、是は矢張り、例へて云へば、學校の授業の負擔が重すぎるとか、工場労働過重等、種々の方面から國民の體位を悪くする原因が働いて居るこれに對しては種々救済方法を講じて居るが尙不十分なる爲に體位向上が巧く行かないと思つて居る。

猪野毛 それも一つの理由であらうか末梢的の理由である。重要なる理由には私見によれば西洋の物質文明を直輸入し、直譯の西洋式健康法、衛生法、藥劑、治療法等を丸呑みした結果である。外國思想をもつて來て日本精神を傷けたのと同じである。一體日本精神に基いた。遣り方といふものは、自然を尊重し、人間は自然の助手になつて神の意を尊重して行く處の健康法、衛生法學問であるのに、例へば近衛内閣の臨時議會で、夏の暑い時節をすっかり切切つて中の空気を水で冷し、冷い空気を外に出さぬ様にした。それで首相は腸を傷めるし、内相は足に神経

痛を起して困つたことがあつたが西洋直譯の衛生法、保險法、治療法をやつて居る。その爲に體位が年々低下するのである。厚相は日本独自の治療法、健康法藥品等を如何に見て居るか。

厚相 私も日本特有の健康法大いに採るべきものありと思ふ。從來から使用されて居る漢法等の藥品にも中々立派なものもあり、そうしたものは藥局法に收載してある。西洋模倣のみして居る譯ではない。

猪野毛 採り入れるといふのが既に問題である。翻譯物に照して見て、翻譯物に合ふ様な物だけを採り、用心なものを殺して捨てかへ見ないのがいけないのだ、皇漢醫のことにしても、成程明治文明は、芝居、繪畫、住宅、衣服、等皆外國のものをとり入れはしたが、在來のものを根絶的に禁止したものはなかつたのに、獨り皇漢醫のみを絶對的に閉塞させぬことにした理由は如何。

原相 漢法醫術については良い所もあらうが、學術の基礎といふものは中々研究を要するので、漢法は、今日の醫學に關する制度に於て之れを認めるといふについては中々議論のある所である。

猪野毛 お説の様だと、學術の基礎つまり理論さへ立てはよい結果はどうでも構はぬといふ様にとれる。西洋のやり方は皆然りであるが、皇漢醫學には理論より効果を重んずる。神代少昆古那神と大國主神よりこの方支那朝鮮印度とこれら總べての醫道の理論治療の實際を皆とり入れて一大潮流としたものも明治初年の西洋かぶれの爲に法律で禁止した。その如き暴壓にもかゝらず、それがすつかり減り去つて、文明の都市に於て、皇漢醫學を實際に信ずるものが、殖えて來て居る。良い物は減びない。厚生大臣はこれ等の點を十分に見て、今後良い物を取りあげて思想の復古許りでなく、日本の昔に還り、改過遷善、日本固有のよいものに從つて、病氣も直し國民體位の向上も計ることは出来なから。

彼等は反對する醫師會の意見より神代より何十億といふ我國民がすでに經驗し効果を奏して來たといふ歴史的事實を尊重しなければならぬ。藥劑の材料も山野に於て容易に手に入れることの出来るものが多のである。西洋の醫藥は殊に今日、自己の營利の爲にするのであるから病氣も一時押さへにして根治といふことをせぬが、皇漢醫學といふものは其の源の精神が仁愛から出發して居る歴代の皇室におかされてもそれ故に醫藥について御詔勅を宣はれて居る。仁を本とする皇漢醫學は病を根治せねばやまぬとして居る。又治療法が仁にもとどき、藥劑を容易に手に入れ得るが故に病の爲に貧困になつたとか貧困なものに對する療法としても適して居る。藥品の輸入も防げて貿易上も都合である。然るに皇漢醫學は當用の貴重なる爲に日の日を見ないのみか貴重なる爲に年々或は天災の爲に湮滅して行き、又外國人によつて、皇漢醫學の眞實によいことを知つた者達が買集めて、持出して仕舞ふといふ實情にある。厚生大臣はこれ等の點にかんがみて根本策を立て、貫きたい。

猪野毛 善いことをとり入れて研究するのは大變よろしいが、之れを實行しなければ何んにもならぬ。然も容易に實行出来ることなのだから即時斷行すべきである。醫師會に諮問するとすると、必ず

厚相 皇漢醫學と申すか、漢法の療法といふことについても中々よい所もあり。中には現在の醫師で其の療法を用ひて居る者もあり、藥でよい物もあるのだ、これは藥局法に收載して居る實情だ。尙研究すべきは十分研究する。

現下に適應する

漢方醫學復興私案

矢 數 道 明

漢方醫學の再興を呼びこれが運動を久しき間に亘りて、實行し來つた我々として、今次議會に於て上掲記事の如き議論が交され、漸く今に至つて宿志實現の曙光を見るかか機運を得たるはまことに感慨無量のものである。我等は嘗て「財團法人日本漢方醫學研究所」の設立を計畫、定款を作成して將に實行に移らんとし、偶々

醫學界との提携研究
一、その他漢方醫學研究向上に必要なる一切の事業
以上七項目を擧げて置いたが現下東亞の形勢及び東西文明の轉換期に際しては一日も早く之が實現を促進せねばならぬと思ふ。今少し右諸事業について説明することとし、やう。

一、漢方病院の建設
病院組織といふ形式は、所謂營利主義の立場に於てのみその經營が許容されることはよく一般にきく所であるが、吾人もなるべく財團法人の經營に於て、純乎たる學術研鑽の道場としたく、又眞の仁術實現の聖地としたく、而して漢方治療も病院組織とする時、必然的に西洋醫學の方便を藉り、やがて東西兩醫學の融合が具現する。吾等は學術共に權威ある業績を擧ぐべくこの漢方病院の實現を期待するものである。或は病院設立は多數多優秀なる後進養成を俟つて後につきべきと説く向きもあるが、吾等は多數多優秀なる後進の出現のために病院の建設を急ぎたいのである。

一、漢方教育機關の設立
別項發表の如く吾等は今暫定的にも拓殖大學の漢方醫學講座を三ヶ年或は四ヶ年制による専門部として昇格せしめ、漢方醫學と西洋醫學よりその教材を編成し日滿支提携の文化的戰士をして大陸へ進出せしめ漢方醫學による親善提携の實を擧げたい。思ふのである。趣意書にも説明してある如く、日滿支提携に我が漢方醫學が絕對的に必要であるが、その實行に當つては營利的強制的輕率妄動を充分慎まねばならぬ。

一、漢方圖書館の設立
猪野毛氏も最後に論及して居られる通りであるが、明治初年法令によつて醫師法の改めらるゝや、漢方醫書の多くは殆んど紙屑同様

に扱はれ、今日に於ては貴重なる文獻の蒐集困難となつた。東亞醫學協會に於ては本年度より著々この圖書館に於ける實行運動に入つた大方の御後援を願ふ處である。

一、草藥園、藥物研究所の設立
先月號に於て清水理事の述べられた如く凡そ現在の漢藥は無統制無規格であるから、漢方病院學校の設立に先行して、藥物の統一、本協會の藥學部の活躍が期待される。

一、日本鍼灸學校の設立
漢方醫學の物療として、その優秀性を遺憾なく發揮し、斯學の向上を企圖するために本邦に於ける權威ある鍼灸學校の實現を期待するものである。又大陸に鍼灸家の進出も緊要である。我陣醫聲として灸療の效果偉大なりは夙に周知の事實となつた。

一、日華滿的文化提携
吾人財團法人日本漢方醫學研究所の計畫をなすや、當時日支國交の急を豫知せる人々、絶大の支援を惜まず、その如何なる文化提携にも倍して、その功績の大なるべきを期待されて日本漢方醫學會の機關誌を通じて、過去に於て既に中國に於ける十九種類の漢方團體と提携してゐた事實が何よりも雄辯にこれを物語つてゐるのである吾人茲に東亞醫學協會は八大部所を分つて、全面的活動に入らんとしてゐる。きくところによれば東亞文化協議會に於ては中國の漢醫を總べて西洋醫學的に再教育せんとしてゐるとのことであるが傳染病豫防法外科的治療の一部分は之を學ぶべきものもあるかかては傳統の貴重なる醫術は將に危険に瀕するであらう。猪野毛氏の云はるゝ如く、東洋を本元として西洋の長所を採り入れるのはよい股體速きに非らず、日本に於ける明治初年以來の過誤を再び繰返へすことなからんことを吾人は之を監視するの義務がある。

柳川長官興亞の堂々たる抱負を闡明す

猪野毛代議士 興亞院の方に質問を申したい支那四億の民心の收攬は如何なる方法によるや。

柳川興亞院總務長官 是まで首相其他の大臣から其大意思を述べてあるが、要するに當方の考を正しく決定して置き、それを自然に辛抱よく判らせて行く様に指導する方が一番工合が善いと思つて居るそれが爲には獨り無形上のみならず、彼等自身の日常生活に從來とは或る變化を感ぜしむる如く自然の導きによらねばならぬ。

猪野毛 大體論としては洵に結構である支那の民心を收攬するは無理をかけてはいかぬ自然に導くことである。更に具體的には武力と經濟も必要であるが、方面を變へて個人の幸福といふことにも思ひを致すべきである。最初に支那を統一し善政即仁徳の政を施した黄帝時代の著書に素問靈樞と云つて、これは政治の教科書でもあり天地の理法を説いたものでもあり而して醫學の原理を説いたものであるが、此書物の中に、國を治むる先づ個人の病より始めよとある今日の支那人を眞實に心服せしむるには支那人の健康をよくしてやる病より先づ救ふ所の仁徳を施す針が如何であると思ふがその方針如何。

柳川長官 人心を収めるに身體を治して行くに就いては醫道の刷新が必要であるといふ御意見には全く同感で、殊に支那各地の現状に於ける醫者と云ひ甚だ不十分の状態であらぬ。人の養成から始めなければならぬ。是が爲には我國から醫術修修者の協力を求める外中華國民の醫術修修希望者に或る程度の醫術を興へ、或る標準迄急速

に進めて、逐次高度に教育と實際の施設を併進させる、それについて、我國の醫術は大體歐米の醫術が多いのでありますが、支那各地の状況では、實情に即する様に来るの漢方の方法を採用すべきではないかと思ふ。隠れたる斯道の人を求めて我國の醫術者と協力して研究を進め度い。是等に就いては目下文化部長が視察旅行中であつて具體的の報告が出来兼ねる。

猪野毛 大體我々の考へて居る所に合致して結構である、聞く所によれば同文書院を大學に昇格して醫學科を造り、又別に上海に醫學大學を設立する由なるが如何。

柳川 東亞同文會の昇格も話には聞いて居るが決定はして居らぬ従つて醫學部を加へることも未定である。外に醫學大學を必要とするとは思ふが上海と確定したものではない。大學のみならずもつと程度の低い學校も何處か數個設立することが必要だと考へる。

猪野毛 從來の同仁會も自然科學研究所も醫學の方針は、今日の日本の行詰り西洋醫學の形式をもつた治療法で支那に及んで居る、これ成績が上らず、むしろ嫌ひ恐れられさへした傾向のある所以である。今後支那に拵へる醫學校は皇漢醫學—從來の日本の醫學と支那の醫學の長所を併せたい—を教育の方針とする意志なきや。

柳川 學校教育の内容人選共は未決定であるが、猪野毛君と同様に考へて居る。

漢方を信じて居るのである。長官のお考へを承り大體満足である。只御参考迄に申上たきは長官自身は善い考へを持たれても、部下の醫者、技師、藥劑師といふ人達は西洋主義の人が大概で、さう云ふ人の調査報告を見ると非常に論理的でどうも西洋醫學でなくてはならぬ様になつて居る。さうすると日本の今日の機構は變なもので、部下の報告に基いて長官なり大臣なりが物を決める傾向があるから斷乎として、この實際に合はぬものを撥ね除けるといふお考へを持たなければ駄目である。西洋式の日本醫學をやらせ様といふ報告が來ても長官は斷乎として、支那人の健康については支那の數千年來の醫法と、外科については現在の我國の非常に發達したる善政を施す其各々の長所をとり善政を交へ基本とされた。更に今一つ伺ひたい。皇漢醫學に關する書物は非常なものである。靈樞素問金匱要略、傷寒論、本草綱目、千金方、等實に千餘種類一萬卷以上の貴重な書物がある。如何にこれを今後活用するや等についてある學者醫者が相當あるがこれ等の人々と支那の此の道の人々と連絡をとつてやつて行くといふ方法を考へるつもりはないか。

柳川 第一の御注意意出先の報告だけに従つて西洋流だけにせぬ様にとのこと諒承した。次の兩國相携へて研究親善に進むといふことは私共事務をとる方でも一生懸命やりますが、こちらの日本人の方で多少かりやれば現地の方は受身で多分引摺られて來ると思ふから國內の方にすゝめて欲しい私共も連絡研究の方法を執る考へである。

猪野毛 現地を視察して歸つた者の話によつて、職に於て熱性病とか青年病とかを西洋醫學で治すには、手數と金と時間が非常にかゝり、これ等は漢方の方が手輕で、

成績も非常によいとのことである又支那には非常に醫者が足りないし、日本人がこれから支那に渡つて大いに發展もし數もふへるがその衛生の爲にも多數の醫師が必要である。所が醫師の學校は短かくて四年長いのは七年もかゝる、これは急間に合はない。こんな時間に合はぬのは西洋醫學を修め要らざる研究と、外國語の修得にエネルギーを浪費して居るからである。そして實際の治療とか藥學藥草の研究は至つて拙い。これを漢方醫學の方式によつてやれば二ヶ年で一通りの醫者が出來る。これは大體の醫師を造つて貰ひたい草根木皮に依る方式に基いて治療に當る方が効果があがりはしないかと考へて居る。

東亞醫學の創刊號拜見しました。卷頭言の御主張も結構です。要するに漢方醫學と西洋醫學とを綜合するものが日本の學術でなければならぬと思ひます。

柳川 短期の稍々程度の低い醫學校を立て、短期間に多數の醫師を造るといふ御意見には全く同意です。只私共支那の土地を歩いて來て感ずるところは衛生施設防疫施設等幼雅な點を見るので、この點は今日の日本流の教育をしなければならぬ日本の教育をしなければならぬ。それから日本人のみでなく支那の青年を多數教育して醫師にしなければならぬと思ふ、制度に至つては未定であるが限地開業の免狀でも興へる様にならうと思ふ。

猪野毛 長官の意旨のある所はわかつた。只これを行ふについては醫師會等の反對があつて非常の障礙が伴ふ、日本に於ては西洋醫學は非常に發達して居るが、國民體位は年々低下して居る。これは西洋輸入の不自然なる治療法天地

成績も非常によいとのことである又支那には非常に醫者が足りないし、日本人がこれから支那に渡つて大いに發展もし數もふへるがその衛生の爲にも多數の醫師が必要である。所が醫師の學校は短かくて四年長いのは七年もかゝる、これは急間に合はない。こんな時間に合はぬのは西洋醫學を修め要らざる研究と、外國語の修得にエネルギーを浪費して居るからである。そして實際の治療とか藥學藥草の研究は至つて拙い。これを漢方醫學の方式によつてやれば二ヶ年で一通りの醫者が出來る。これは大體の醫師を造つて貰ひたい草根木皮に依る方式に基いて治療に當る方が効果があがりはしないかと考へて居る。

諸家の感想

本誌創刊號は各方面に問題を提起し、例へば日本醫學新報の如きその二月二十五日發行八百五十九號の社説に於て、本誌の卷頭言と同意旨の論旨を以て大陸醫務と漢方醫學について論じて居る次第である。編輯室の机上に直接寄せられたる諸家の御感想のうち先着順に掲載することとする。

藥草刈ピクニツ
國民思想研究所
小岩井 淨

東亞醫學の創刊號拜見しました。卷頭言の御主張も結構です。要するに漢方醫學と西洋醫學とを綜合するものが日本の學術でなければならぬと思ひます。

柳川 短期の稍々程度の低い醫學校を立て、短期間に多數の醫師を造るといふ御意見には全く同意です。只私共支那の土地を歩いて來て感ずるところは衛生施設防疫施設等幼雅な點を見るので、この點は今日の日本流の教育をしなければならぬ日本の教育をしなければならぬ。それから日本人のみでなく支那の青年を多數教育して醫師にしなければならぬと思ふ、制度に至つては未定であるが限地開業の免狀でも興へる様にならうと思ふ。

猪野毛 長官の意旨のある所はわかつた。只これを行ふについては醫師會等の反對があつて非常の障礙が伴ふ、日本に於ては西洋醫學は非常に發達して居るが、國民體位は年々低下して居る。これは西洋輸入の不自然なる治療法天地

成績も非常によいとのことである又支那には非常に醫者が足りないし、日本人がこれから支那に渡つて大いに發展もし數もふへるがその衛生の爲にも多數の醫師が必要である。所が醫師の學校は短かくて四年長いのは七年もかゝる、これは急間に合はない。こんな時間に合はぬのは西洋醫學を修め要らざる研究と、外國語の修得にエネルギーを浪費して居るからである。そして實際の治療とか藥學藥草の研究は至つて拙い。これを漢方醫學の方式によつてやれば二ヶ年で一通りの醫者が出來る。これは大體の醫師を造つて貰ひたい草根木皮に依る方式に基いて治療に當る方が効果があがりはしないかと考へて居る。

日滿支心の連絡
代田 文誌

東亞醫學は日滿支の心の連絡機關として至大なる意義を有すると思ひます。鮮人にも滿人にも中國人にも普及することが必要であり又これ等の人々の原稿を發表することも必要でありませう。日本の醫學學校の創立は何をおいても必要であります。漢方鍼灸を含めた専門學校が建たる様運動しなければならぬと思ひます。

柳川 身體を治す形のあるものを治す外に心の形のないものに迄及んでのお話は私共が日頃何んとかせねばならぬと考へて居る所である。東亞の新秩序を建設し、永遠の平和を確立する爲には形式だけなく無形の方に多く心を用ひねばならぬ。只今の御意見は深く了解し努力することに致します。

猪野毛 長官の意旨のある所はわかつた。只これを行ふについては醫師會等の反對があつて非常の障礙が伴ふ、日本に於ては西洋醫學は非常に發達して居るが、國民體位は年々低下して居る。これは西洋輸入の不自然なる治療法天地

成績も非常によいとのことである又支那には非常に醫者が足りないし、日本人がこれから支那に渡つて大いに發展もし數もふへるがその衛生の爲にも多數の醫師が必要である。所が醫師の學校は短かくて四年長いのは七年もかゝる、これは急間に合はない。こんな時間に合はぬのは西洋醫學を修め要らざる研究と、外國語の修得にエネルギーを浪費して居るからである。そして實際の治療とか藥學藥草の研究は至つて拙い。これを漢方醫學の方式によつてやれば二ヶ年で一通りの醫者が出來る。これは大體の醫師を造つて貰ひたい草根木皮に依る方式に基いて治療に當る方が効果があがりはしないかと考へて居る。

報恩觀に立つて
三好 修一

東亞醫學の創刊號拜見しました。卷頭言の御主張も結構です。要するに漢方醫學と西洋醫學とを綜合するものが日本の學術でなければならぬと思ひます。

中國漢方醫界の現況

と日華提携に就て(二)

大塚敬節

一昨年の春であつたと思ひます慶應大學の藤波教授が中華民國の醫學界を視察して歸られた時のお話の一節に彼の地の漢方醫の勢力の強大なの驚いたといふのがあります。これは事實であります。その數に於て西醫は中醫の九年の一毛にすぎません。都會地には僅少の西醫が居りますが、田舎に入れば全部中醫即ち漢方醫ばかりで支那全土には百二十萬の漢方醫がゐるだらうと云ふことあります。而して漢方醫は傳統の力をもつて強く民衆の心を捉へ、また政治的にも非常な力を持つてゐます。茲に持つて参りましたのは、事變直前まで彼の地で版行されてゐました漢方の雜誌で、全部で十八種類あります。がこれ等の雜誌に就ては、あとで御紹介致しますが、山西の大原市で出版されてゐました醫學雜誌の如きは、會長が閻錫山でありました。又江蘇常熟から出版されてゐました國際雜誌は孫科だとか焦易堂とか、石英とか云ふ大物が後援してゐたのであります。又上海から出版されてゐました光華醫學雜誌は、陳果夫、陳立夫、焦易堂等々の國民政府の要人が五、十名程参りたりとならなうで、此を後援してゐたのであります。又北平から出版されてゐました明日醫學も陳立夫、焦易堂、陳宜誠等の有力者が後援してゐたのであります。聞く處によりますと、陳果夫や陳立夫の父は漢方醫だと云ふことあります。その他の大小の雜誌も皆夫々政界の有力者と提携してそ

の勢力は仲々侮り難いものがあつたのであります。しかし今次の事變によりまして、これ等の雜誌がどうなりましたか、今それを知る事が困難であります。支那全土に分散します處の百二十萬の漢方醫の力と云ふものは、事變の後と雖も同じく牢乎として抜くべからざるものがあるかと考へられます。たとへ國民政府の有力者と交渉が絶へても、彼等は必ず新しい政權の有力者を動かすだけの力を持つてゐる筈であります。

話を少し脱線しますが、私は一昨年臺灣から東京に来て一人の熱心な漢方研究家に逢ひました。この人は嘗て上海で四ヶ年間かゝつて漢方の學校を卒業したのであります。臺灣では開業が許可されませんが、更に東京へ出て、西洋醫學の學校へ入學したいと云ふことでありました。その人の申さるゝに、臺灣が日本の一部分なつた時、全島に二千人餘の漢方醫がゐりましたが、その後法律を以つて、醫者は西洋醫學を學んだものでなければならぬ。漢方醫は一切認めないと云ふことになりました。昨今は全島に二百人足らずの漢方醫しかゐらないが、それも老人ばかりであるから、もう十年もすれば一人の漢方醫もなくなるだらうと思ふ。然るに一般民衆は漢方醫を信ずることが厚いので、勢ひの赴く處免許のない漢方醫が澤山出來ざるを得ないわけでありました。事實今日の臺灣には、密醫と稱する無免許漢方醫が澤山

をりまして、民衆の需めに應じて投藥してゐるさうであります。當局では此の密醫に藥を賣らない様に嚴重に取締つてゐるといふ状態でありまして、一般民衆はこれに對して、非常に不平不満を持つてゐるのであります。然るに一方當局が漢方醫を許可しない理由は、それが非科學的であること、傳染病豫防の妨害をなすこと、非科學的の問題は、純然たる學術上のことに屬します。で、こゝでは論ずる時間を持ちませんが、傳染病豫防の妨害をなすと云ふ點は、吾々もこれを否定は致しません。

然れどもかゝる短所を補つて、これを正しく導いてやることこそ政府當局者のやるべきことなのであります。一二の缺點を指摘してこれを禁止するならば、今日のドイツ流の醫學も當然禁止すべきであります。物を夫々長短得失があり、無相通じて、始めて全きを得るのであります。漢方醫の免許を禁止して、密醫を横行せしめ、而かも一般民衆の反感を買ふといふが如きは、決して策のよろしきを得たものではありませぬ。現在の臺灣の實状を見る時、さきの中華民國の漢方醫の言葉は、大きい味ふべき點があると思ひます。

茲に於て、私は次の如く叫ばざるを得ないのであります。曰く、中華民國にドイツ流の醫學を移植せんと試みるはよい。しかし強制的に漢方醫を壓迫して無理強ひに、ドイツ流の醫學に統一して、學問を一型に限らんとするは、東洋平和の永遠の攪亂策であり、日華兩國の離間策として最も有害を得たものである。かゝる計畫は中華民國の實状を知らない者の論である。

さて然らば漢方醫學による日華親善は如何にして可能であるかといふ點こそ、これから語りたく存じます。日本の漢方と中國の漢方との相違に就て、先づお話し致します。我が邦でも鎌倉時代までの漢方は支那の漢方と大差がなかつたが、鎌倉時代以後、漸次日本化して参りまして、殊に徳川時代の中期以後には腹診法が長足の進歩を遂げましたため、脈診を主とする中國の漢方とは相當の隔りが出來て參つたのであります。その他藥の用ひ方にも亦大いに相違が生じたのであります。然るにその後日本では明治の初年に法律を以つて、漢方醫を認めないことになりまして、漢方の傳統は將に失はれんとするたのであります。が、數名の有志家が西洋醫學を學んで醫師の資格を居てのうちに、漢方を研究しまして、漸くにしてその命脈を保持し、昭和に入つて、俄然として復興の機運に向つて來たのであります。従つて現代の日本の漢方醫は西洋醫學を學んで、然るに漢方に志した方々でありまして、所謂科學の洗禮をうけた人々であります。

これに反しまして中華民國の漢方は今から十五年前までは昔ながらの古色蒼然たる漢方醫學でありまして、陰陽五行五運六氣の説を何の不安もなしにとり入れてゐたのであります。日本に於て漢方復興が叫ばれる様になつた頃、即ち民國十五年(昭和元年)頃から急に漢方醫學の改革が叫ばれる様になつたのであります。今から十五年前の中華民國十二年に刊行された「中醫雜誌」の第六號の巻頭には、一人身一小天地論なる極めて天下泰平的の論文が載つて居り、第九號の巻頭には「座病須察神氣論」なる骨董的論文が載つてゐるのであります。

吾人はかねてより漢方醫學による日華滿三國の文化提携の必要を痛感して、その趣旨を世に問ひ、而して事業の一として教育機關設立の計畫を發表するや、天下の視聽翕然としてこゝに聚り、廣く内外よりの贊助激勵の辭殆んど應接に遑なきの有様であつた。今や日支事變は愈々長期建設の段階に入るに及び日華滿三國の緊密なる親善提携の實を擧げんが爲には醫學藝術による最大捷徑たるを確信するものである。而して中國滿洲國醫學の現狀を觀るに、同國には數千年傳來の漢方醫學が器として存し國民一般の信頼程度は遙かに洋醫に勝るものがある。滿洲國に於て康徳四年(昭和四月)現在に於ける醫師數一、二七三名の多きを算し、洋醫は僅かに二〇四名に過ぎず、中華民國に於ても略同様の状態である。而かも漢方醫學は、その學理といひ、その治療實績と云ひ、之を現代醫學上より

見るも其の優秀性を次第に證明せられつゝあり、されば單に西洋醫學のみを以て提携の實を擧ぐるの不可能なるべきは自明の理にして、必ずや西洋醫學の教養を備へ同時に漢方醫學に熟達せる人をして長短相補ひ有無相避せしめて以て完備なる濟世融和日華滿親善の實を擧ぐることに邁進せねばならぬと思ふ。

茲に於て吾等は從來の拓殖大學漢方醫學講座を昇格せしめて三ヶ年制による獨立專門部となし、その教材を漢方醫學と西洋醫學との兩者に採り、その設備と内容を擴大強化し、科學の洗禮を受けざる彼地の漢醫を指導すべき人材を養成せんとするものである。而して卒業生に對しては滿洲國北支中支朝鮮臺灣等に準じて醫師たるの資格を與へ(東亞醫人として活躍すべき方途を授け、以て日華滿三國親善提携の急務に應じ、東亞永遠の和平確立の國策に寄與せんとするものである。冀くば右趣旨を諒とせられ大方諸君の御賛同と御後援を切望する所以である。

昭和十三年十二月二十五日
發起人一同

拓殖東亞醫學專門部設立趣意書

吾等はかねてより漢方醫學による日華滿三國の文化提携の必要を痛感して、その趣旨を世に問ひ、而して事業の一として教育機關設立の計畫を發表するや、天下の視聽翕然としてこゝに聚り、廣く内外よりの贊助激勵の辭殆んど應接に遑なきの有様であつた。今や日支事變は愈々長期建設の段階に入るに及び日華滿三國の緊密なる親善提携の實を擧げんが爲には醫學藝術による最大捷徑たるを確信するものである。而して中國滿洲國醫學の現狀を觀るに、同國には數千年傳來の漢方醫學が器として存し國民一般の信頼程度は遙かに洋醫に勝るものがある。滿洲國に於て康徳四年(昭和四月)現在に於ける醫師數一、二七三名の多きを算し、洋醫は僅かに二〇四名に過ぎず、中華民國に於ても略同様の状態である。而かも漢方醫學は、その學理といひ、その治療實績と云ひ、之を現代醫學上より

(四)

蟲様突起炎の話(二)

龍野 一雄

緒言—歴史的事項—解剖、組織—生理—病因—病理解剖—
症候—診断法

腸腫の名は既に素問に現はれてゐるが、病理、症候、療法に關しては漢代の金匱要略、隋唐時代の病源候論、明代の外科正宗が最も主要なもので、他に類書も多いが大抵此三書の範圍を出ない。
外人が報告した支那に於ける蟲様突起炎は非常に珍しいことになつてゐるが、それにも拘らず歴代の醫書に於いて腸腫を脱瀉してゐるのは發生率は少くとも重要さに於て逸すべからざるものであつたからだらう。

我國に於ても既に平安朝時代の代表醫書たる醫心方に腸腫の記載があるが、此書は支那醫書の編纂物だから我國の實情を窺ふに足らない。治験例は漸く江戸時代になつて見られる。幕末に土浦方面で開業してゐた山本貞淳の橘黃醫談によると年に三四人位しかないといふ。流行醫と否とも違ひない。一般の關心如何でも大變違ふから記載、殊に主として難症や奇病を記載した治験録の上で頻度を知らぬことは甚だ困難だが概して江戸時代にも尠かつたといふ印象が得られる。

江戶時代の醫書で比較的腸腫について詳述してゐるのは本間養軒の瘍科秘録、原南陽の醫事小言、華岡青洲の瘍科増談、高階桂園の活談編等であり、これらも外科の領域に屬してゐるのは注目すべきだ。蓋し是は慢性疾患で時には排膿後の處置を要することがあつたからだが開腹術の例は無い。而して是等の内容では概し外科正宗を

祖述した所が多く宇津木昆臺も古訓醫傳で外科正宗を参照せよと説いてゐる。
明治時代になつても非常に少く明治十二年三月より二十二年六月まで發行された温知醫談には治験例約六〇例中三例、明治十六年二月より二十八年一月まで發行された和漢醫林新誌には治験例約四五〇例中一三例あるに過ぎない。
猶注意すべきは明治十七年再版の漢洋病名對照録十七頁に蟲様突起を盲腸炎と區別して記してある點でフイツツの記載よりも二年早くなる譯である。

現代に於ては蟲様突起炎に對し専ら手術療法が推賞され既に患者自身盲腸を切るべきもの、切らねばならぬものと極め込むやうになつてゐる位外科醫の主張が徹底されてゐるのは外科醫のためにも學問のためにも將又患者のためにも喜ぶべきことである。
然るに我が漢方醫學に於ては數千年來の實際の經驗を踏襲して一煎藥のみを以て頗る優秀な成績をあげてゐるのは是亦漢方醫學のためにも患者のためにも大いに欣びに堪へないものがある。たゞ残念なことには未だ學術的に記載されてゐないので私は及ばず乍ら左記の論著を以て世に問ひつゝある次第である。

四、蟲様突起炎に對する大黃牡丹湯の適應症(東亞醫學協會總會講演本年二月十一日)
此他日本醫學研究會及拓大漢方醫學講座に於て講演をなしたり。
蟲様突起の生理
蟲様突起は生理的に自家運動を管へ。此事は手術的に肉眼的にも認め得るし造影劑を飲ましてレ線學的にも證明することが出来る。内腔があるといふことは一方に於て腸の内容物が侵入することを意味する。盲腸と蟲様突起とはゲルラツハ氏瓣によつて交通し突起内に糞塊糞石等を屢々認めるものである。世間では葡萄の種子を飲んだから盲腸炎になつたなどいふことしか言ふが、特に此病氣が甲州人にも多くなり、葡萄を全然食へない時期にも起り、葡萄を全然食へない人にも起ることなどを考へ合すれば常識的にも葡萄種子説は成立しないことが判る。實際手術によつて検査したる蟲様突起内腔には種子、寄生蟲、蟲卵等が發見された場合もある。稀には膽石、毛髮、留針等も報告されてゐるが斯かる異物は〇・四前後だから殆ど問題とするに足らない。
蟲様突起の自家運動は一方に於て内容即ち分泌液たる少量の粘液を排除する役をなす。内容物の排除が障礙した時に内腔の充進、循環障礙等が起り炎の基地となる。次に機能の方面に就ては種々の説がある物の未だ定論とは言ひ難い。今その代表的な物を擧げると

- 一、消化機能説 蟲様突起の分泌物は蛋白質、含水炭素を消化するといふ。
- 二、腸管蠕動充進説 腸管の蠕動を促すホルモンを分泌する其ホルモンはヒヨリン様の物質である。
- 三、活動性淋巴球説 蟲様突起内に多數に淋巴細胞が存在すること。内容中に多數の淋巴球を證すること等は淋巴球に大きな意義のあることを想像せしめる。

私方穴「肋膜炎の灸穴」使用實例

患者は二十八歳の女子である昨年春に感冒が誘因となつて、醫家の診を乞ひし處濕性肋膜炎との診斷を得たのであるが、その後瀕瀕液の爲に防固平坦となり、且つ、呼吸困難、肋骨部疼痛を來せしより、一週水を取つたのであつたその後や、経過がよくつたが又々疼痛を來し再び水を取らねばならぬ事であつた。余の治療を乞ひしはこの時機であつた。

自覺症として肩ヨリ、頭痛、強脊、腹部膨滿、殊に上腹部がやゝ硬くふくれてゐた。食味不良、且つ、不振、で熱は三十七度五分位脈は派細で、動悸があり、睡眠不安との事であつた。

この患者は一見肺癆質の如く觀ぜられたので余の經驗からして先づ中腕、足三里、氣海に小艾三壯を施し鳩尾、巨關、幽門、不容、承滿、陰都、梁門の邊に散鍼を施した。且つ、發熱あるやも知れざるも心配せぬやう注意を與へて置いた。

翌日發熱三十八度三分に至り二日位その程度の發熱を昇降し、三日目にはほとんど平熱となりさつぱりし、食味もよくなつたと云ふそこで私方肋膜炎の灸穴を選穴して約三十壯を施し以後非常に経過よく今日では發熱も自然に吸收せられ、家中を歩行するに至つたのである。

柳谷素靈

私方肋膜炎の灸穴は藥田氏の方にして取穴簡易にして且つ効果があるやうであるからここに紹介することとする。先づ繩子に以つて兩足を揃へたるその周圍を量り之を喉にかけ繩子の兩端盡るところの脊柱に假點をつける、次に兩口物間を測り繩子にて量る、之を「名家灸選」では合口寸と云ふ、之を「〇」すこの寸法を以つて前記脊柱の假點より左右に開き二點「イ、ロ」を得る、更に脊柱と平行する線上で、イ點及ロ點の上方の寸法を以つて左右二點を得る之をハ點ニ點とす。以上のイ、ロハニの四穴へ三十壯施灸するのである。

戰爭は文化の母である。支那に於て最も文化の發達したのは、戰國時代であり、日本に於ても戰國時代に既に徳川時代の文化の萌芽が鬱然として燃え出たのである、西歴史に於ても同じことが云へる。

今次の事變はいつまでつづくのであるか、吾々には豫測が出来ないが、此の事變は必ず新しい文化を生むに異ひない。

第三回 漢方醫學講座開講豫告

期 間 自昭和十四年四月五日至昭和十四年十月三十日
場 所 東京市小石川區若荷谷町三二 拓殖大學
聽講希望ノ者ハ三錢切手封入庶務課規程則書請求アレ

拓殖大學漢方醫學講座

電話大塚(86)一三〇番、六七三〇番

河豚中毒と其療法

石原 保 秀

河豚汁や毒は我と汝のみ
河豚食へば佛も我も無かりけり
喰はず嫌ひの私には、河豚を語る資格は無いが、美味求眞の木下謙次郎氏に據れば「河豚は他の魚類とは、全く別種の特質を有するものである(中略)。之を食へば人内を神寛かに、心自ら舒び、體内の違和が一夕にして解け、嚴冬尙且氷雪の寒を知らざらしむるが之は自ら人間界普通の食味に異なるものがあるからだ。随つて一度吐味を解したらんには、何人も河豚の捕虜となりたることも不思議と云ふべし」だと云ふ。

昔から人口に膾炙する河豚汁や鯛もあるのに無分別の譏りから免れ得ぬ捕虜共である同時に又河豚は食ひたし命は惜しし此處が思案の二本松を一度真剣に、考へ直さねばならぬことであらう。

今日分つて居る成分から見ただけでは、何故そんなウマイのかは寧ろ不思議だが、木下氏の所謂捕虜黨から見れば「其糞尿すら亦珠玉の如し」だと云ふのだから凄じい。是に於てか或人は之を解して「それは無意識ながら輕微な中毒に因るものでは無からう歟」と言つて居た次第であるが、最近廣島の堀田博士に據れば「結局それは鱈の持つ毒素(テトロド、トキシシ)の魅力たるものが分つた。即ち該毒素は、知覺神經の輕い麻痺を起すが、之が一種の快感を齎らす、それが鱈黨の仰慕である」と云ふ成程それでこそ神寛かに心自ら舒び、違和が一夕にして解けもし、佛も我も無かりけりになるのであらう。

所で此無分別者の中毒者に對する療法だが、堀田博士は「河豚の中毒には、種々の注射療法も効果が無い。近頃新薬で一二稱讚すべきものも無いでは無いが、最も確實有效なのは吐瀉である」と言つて、扱民間療法中のツハブキ煮、土埋療法等にも言及して居るが、扱然らば古來皇漢醫學では、如何の之を取扱つたであらう歟。今本網其他に據れば、萩、五倍子、槐花、肥田、鷄血、鰻、無患子、若荷根、黑豆及甘草、樟腦、櫻樹皮、青砥の粉共他が擧げられて居ることは御承知の通りである。併し其中で最も推奨すべきは、養魚即ち鯛島賊であらう歟。私は未だ實驗の機會を得ないが、畑金鷄、平野鞆鷄、桂川月池、吉田長淑の諸先生が、皆異口同音に之を推奨して居るのである。即ち

「河豚毒を解する神方、乾鳥賊右一味洗淨、焙りて之を嗅ぎ、之を食へば即ち立所に河豚の毒を解す。安永庚子の冬、三好甫盛と云へる者、河豚子あるものを食ふ。別人恙無し。甫盛は之を食ふの後、神氣恍惚、肢體軟弱、全身麻木、自ら必死を期す矣、隣家の僕之を聞き、乾鳥賊一枚を携へ來りて面前に之を焙る。香を聞かや忽ち神氣清爽を覺え、裂いて之を食ふや、精神

全く常に復し、吐瀉の患無く、夢の覺むるが如し(中略)。姫路侯の臣、力丸五左衛門(長淑)に語つて曰く(中略)、巨桶に水を盛りて先づ河豚を放つ。漾々游泳して甚だ樂しむ。次に鳥賊を放つ河豚見て甚だ畏怖して走る鳥賊追つて墨汗を噴けり、河豚忽ち死せり。物の相制する奇と謂つべきかな。是に由つて之を觀れば、其效知るべきなり(吉田長淑小傳)

漢方醫學を通じて日華滿三國民の提携親善を提唱して立ち上つた本會は陣容も着々整備し感々具體的活動の巨歩を印することに於て各方面の期待と注視を受けて居ります。此の御承知の如くですが、更にこの際現地の實情を視察し、兼て本會の設立活動を現地に紹介する意味を以て書記小柳賢一を派遣することに致しました。小柳書記は三月七日長崎出帆の長崎丸にて、直ちに上海に渡り、上海、南京、杭州、青島、濟南、北京、天津、張家口、大同等の要所を約四十日の豫定にて一巡し、皇軍將士の效業に具なる感謝を表すと共に、廣く現地の方々の御意見を聞き、純粹民間團體として立ち上つた。本會独自の目的の爲に詳細なる視察を遂げて歸る豫定でありませぬ。尙次號本誌は現地版ともいふべき、新鮮なる現地ニュースを満載する特輯號として諸君のお手許に差上げることに致しました。成立日尙淺き我東亞醫學協會が早くもこの一大事業を敢行し得るに至りましたことは、協會幹部を始め會員一同犠牲的精神を以て大目的に奉仕しつゝあるの結果と考へます御期待下さい。

北支特派員を派す

梅村忠弘氏
逝去さる

去る二月一日、鳥根縣の漢方醫家、梅村隆保氏の令息忠弘は突然病の爲に逝去された。忠弘氏は昭和八年東京慈惠會醫科大學を卒業され、松山病院に勤務の傍ら、木村塾にて漢方を研鑽されること三年業成りて、歸郷後父君の膝下に在りて、家業を助け、臨牀に讀書に孜々として漢方への精進を續けられ山陰地方に漢方の勢力を伸張するは一に君の努力に期待する所大であつた。然るに今回圓らずも急患の爲空しく幽冥を距るに至つた事は痛恨の極みである。尙父君より忠弘氏菩提の爲に木村長久氏を通じて東亞醫學協會に對し金一封を寄贈せられた。本會は厚くその芳志を謝し、一層斯道發展のため努力して忠弘氏の英靈を慰めんとするものである。

東亞醫學三月度例会

- 一、日 時 三月九日午後六時半
- 一、場 所 場所神田區淡路町東京醫師會館
- 一、會 費 無料(但し會場費三〇錢申受く)
- 一、講 演 1、原南陽先生の藏方に就いて
2、原南陽先生の灸法に就いて
- 一、來 賓 柳谷素靈

東亞醫學協會二月例会(壇上立はる數氏)



例會は前號豫告の如く拓大講堂にて行はれ頗る盛會であつた。醫祖神禮拜、先哲醫家恩靈の默禱後、講師矢數有道氏「素問を如何に活用すべきか」について熱辯を振はれ、次いで立ちし講師龍野一雄氏は氏が拮据十年一貫して追求して居られる「虫瘻突起炎に對する大黃牡丹湯の適應證」についての研究を發表せられた。その該博、周到緻密なる報告は、日本の漢方醫學にして始めて發表せらるべき貴重なる記録である。「近き將來に於て盲腸炎は漢方といふ時代の到來することを疑ひませぬ」との結語は蓋し、研究の自信が裏打した磐石の重みであらう。後同窓會に於ては役員決定がなされた。

協會研究の漢方藥

新形式の下に製品化する 東亞醫學研究所より發賣

漢方藥の奏效確實なことは廣く一般に知られて居る處である、效能あることを知りつゝも煎煮等の手数が面倒だからとか、或は又生薬は虫がついて保存がきかないとかいふ様なことを缺點として苦情を言ふ者があつた。一體漢方藥の特色は生薬を用ふる處にあり、大部分のものはそれを煎じて、藥湯として服用する處に、その良い點があるのだが、これも不便といふ様な點を言ひ立てられれば、たしかに普及を妨げる事情といふことが出来る、一日も早く少しも廣く普及して、我國民體位向上の要求に應へんことを期して、我協會では豫めて、この點の改善を志し多年に亘り研究して居たのであつたが、最近に至り、支那現地より優良漢方藥品の要求が漸次増大して來たので遂に、今日迄の研究成果を製品化することになつたのである。

東優横優が販賣

東京の横濱優良品販賣會は在京の藥劑師により組織され、藥業報國の趣旨により、最も優良なる藥品を販賣して公衆衛生の發達に資して居る有力團體である尙同販賣會では現地支那難民慰問の爲新製漢方藥を多數携行する特派品を派し、併せてその種優良新式の漢方藥あることを大陸に紹介することになつた。

庶務部報告

一、金五拾圓也

別面記事の如く御令息故忠弘氏菩提の爲特に本會へ寄贈せられたり。

大阪市浪速區惠美須町、東洋醫學院長保賀彌一郎氏より本協會宛次の著述の寄附を受けた。謹んで謝意を表す。

- 一、譯註内經知要 全一册
- 一、香川氏灸譜 全一册
- 一、傷寒金鏡 全一册

東亞醫學

第

二 號

昭和十四年三月一日

- 六、總部 主任 吉田 一郎 役員 柳谷 素重 西澤 生惠 戸部宗七郎
- 七、學術部 主任 木村 長久 役員 中村 高次 藤井次郎 清水藤太郎 阿久津彌七
- 八、醫學部 主任 藤井次郎 役員 阿久津彌七

東亞醫學購讀料 拂込者芳名

- 東京 池田 千壽氏
- 東京 戸田 智久氏
- 東京 工藤 訓正氏
- 東京 三輪 光明氏
- 東京 松浦 巖氏
- 東京 藤井治郎氏
- 東京 吉田 增藏氏
- 東京 大澤 直成氏
- 東京 龜田 實氏
- 東京 田島増次郎氏
- 東京 森 善助氏
- 東京 河野 三郎氏
- 東京 小川 春雄氏
- 埼玉 松澤 恭助氏
- 浦和 鈴木 一郎氏
- 東京 山本平一氏
- 東京 氣賀 林一氏
- 茨城 高橋 正保氏

横濱東亞醫學 研究會

同會二月例會は二十一日夜中區宮本町黒澤醫院にて開催此日元老清水先生其他スキーに行かれたりした爲出席十名位にて甚だ寂寥であつた。講演題目はヘッド氏帯の研究、香道の話の二題にして打とけしんみりした會合であつた。

拓大漢方醫學講座 第一期會年次例會

二月廿四日丸の内總絲會館にて

東亞醫學協會々則

- 一、名稱 本協會ハ東亞醫學協會ト稱ス
- 一、目的 本協會ハ日華滿三國ニ於ケル東亞醫學ノ交驛研究ヲナシ、相互ノ親善交友ヲ緊密ナランメ、進ンデ東洋文化ノ振興ヲ圖リ、以テ東亞永遠ノ平和確立ノ爲メニ貢獻セントス
- 一、事業 本會ハ目的達成ノタメ左ノ事業ヲ行フ
 - 一、機關誌「東亞醫學」ノ刊行
 - 一、各國ニ於ケル機關誌ノ交換
 - 一、各國ニ於ケル書論文ノ交換
 - 一、各國ニ於ケル優良藥品ノ交換
 - 一、研究生視察團ノ遊學交換
 - 一、漢方病院ノ設立、漢方圖書館ノ設立、和漢藥研究所、漢方醫學教育機關等ノ設立
- 一、組織
 - 一、其ノ他目的達成ニ必要ト認ムル諸事業
 - 本部 諸事業東京市小石川區若荷谷卅二番地 拓殖大學漢方醫學講座内 電話大塚(86)一三〇番、六七三〇番
 - 事務所 東京市牛込區新小川町二丁目七番地 借行學苑内 電話牛込(34)二七七二番 (通信及問合セ等ハ一切事務所宛振替東京一九、四三〇番)
 - 理事 當分ノ間拓殖大學漢方醫學講座講師ヲ理事トス
 - 會員 本會ノ主旨ニ賛成シ、目的達成ノタメ盡力セントスルモノ
 - 會費 當分ノ間之ヲ徵收セズ(例會ニ於ケル出席者ハソノ都度會場費ノミラ申受クルト)
 - 贊助員 本會ノ主旨ニ賛成シ目的達成ノタメ助力セラル、モノ
 - 顧問 本會ノ事業遂行上顧問若干名ヲ置ク

東亞醫學協會 役員總會

出席十餘名會計報告、新役員選舉の後、同窓第一期會の事業として覆刻出版せる長砂湯法の事業報告あり何れも異議なく可決し。尙本年度も適當なる覆刻書を一、二出すべきこと、會費は通信費として年額金二十錢(當日缺席の方は幹事西山一雄氏方まで切手代用にて拂込まれたし)也を徵集することに決定、それより、木村長久先生の原南陽先生のお話しあり、内容の大略を生立ち、三、天性、四、師承譜二、生立ち、三、天性、四、師承五、仕官以前の南陽、六、仕官後の南陽、七、南陽の著述と學問について縦横に説き去り説き來られて、偉大なる先哲を眼前に彷彿たらしめるものがあつた。最後に南陽劍方の中にて著明卓效ある甲字、乙字、丙字、丁字、鍼砂、丸味檳榔、紫胡四逆、等の諸湯に就き來歴、分量、方證、運用等につき詳細に解明され近來稀なる有意義の會合であつた。

- 第一 理事役員會記録の件
- 第二 拓大講座を専門部に昇格の件
- 第三 建白書及漢方専門科名請願の件
- 第四 小柳役員を大陸に派遣の件
- 第五 財團法人東亞醫學協會設立計畫の件
- 第六 日華漢方醫學展覽會開催の件

第七 支各地部設立の件
第八 顧問推戴の件

第七 支各地部設立の件
第八 顧問推戴の件

を各自活潑に討論して、最良の具體策を以て何れも可決し、その取扱、執行は理事會に一任した。それより食事に入り、和氣藪々の中に晩食を共し、食後更に會談を續行し、臨時呈出議案としては

- 1、圖書館設立の件
- 2、出版部より漢方入門書を出版の件
- 3、事務所確立の件
- 4、短期上級講習會開催の件
- 5、日本農林新聞の醫事衛生藥草相談に協力するの件

等を審議決定し、尙大陸派遣員に對する各自の希望、意見等を開陳して全く會を終つたのは十時半であつた。

矢數議長の指摘せる如く、會が終始和協一致の精神を以て貫かれたるは協會の洋々たる前途を祝福するものとして喜びに堪えぬ所である。

(七)

祝御發展

漢方醫藥

僑華大德堂

橫濱山下町

祝御發展

僑華鮑啓康

橫濱本牧町三ノ六一八

祝御發展

錠劑 伯州散錠

原料純真、調劑確實

各病院御用 東京和漢藥製劑所

從橋區大久保百人町三ノ三〇一 電話四谷五九一七番 振替東京六一七六番

天津だより

西 欽也

小生も當地へ参りましてから先づ風を引きまして早速支那の漢方醫師に診て貰ひましたが、やはり本場は本場で驚きました。初めは自分で薬を小量宛買ひ求めてあれやこれやと服んでみたのですが、さつぱり効かんです。それで参考の爲にと出かけた譯でした。漢方醫者と云ふのは御存じの通り薬店に居りまして、客の脈を診て処方箋を呉れるんです。そして其の処方箋を店の販賣部の方へ持つて行き薬を買ふと云つたシステムです。お醫者さんの居る部屋と云ふのは二階の小さな部屋でした。壁には澤山の額や銀製の賞牌が飾つてありますが、この額には醫者の治した客から贈られた感謝状で賞牌もそんな意味のものです。これは醫者の看板の如きもので、この賞牌や額が多い程名醫と云ふ譯なのであります。醫者は六十近くのお老人で現在の病状とか既往症などは一切訊きませんでした。直ぐ脈を診て呉れたのです。なかなか慎重な診かたで左右七八分を要すると思ひます。そして驚いたことには小生の既往症から現在の病状を間違ひなくびたりと當てるのです。いさゝかばかんとして吃驚してしまひました。

液量は三〇〇単位を五〇単位に煎じつめてどろどろになつたやつです。あまりの濃度に惧れました。が翌朝になつて昨日迄の病状が飛んでしまつたやうに爽快になつたのは更に驚いたのです。その後、支那人の國民性として悠長なのんびりした面に比較して薬の效力だけは一服の効能で醫者や薬の信用を左右するとかで、面白い現象だと思ひました。

この一か八かの薬の量を全く脈診ひとつにかけかてゐるんですから偉いもんだと思ひます。亦話では、日本人はコレラやマラリヤに迎も恐れてゐるやうですが支那人はちつとも恐れてはゐないと云ふのです。それは内服の漢方薬で直せるし外用の漢方薬で素晴らしのがあることかです。それはお隣の上貼る薬で膏藥のやうな薬ださうです。臍は閉じてゐるやうだが閉ざされてゐないと云ふのがこの薬の効く所ださうです。眞偽は判りませんがこれも漢方醫學的なみかたかも知れません。

二月一日、板垣陸相、有田外相は議會に於て現在の段階に於ては兵を以てするのみでなく民心を把握を痛感し、對支政策は民心把握に歸し、その政策の使徒たるべしと強調す。

編輯後記

本誌の題字は學長永田秀次郎先生を煩はしました。記して感謝の意を表します。

メモ

東亞醫學創刊號の主張の一部はそのまゝ、日本醫事新報の社説として掲げられたり。

一月三十一日、猪野毛氏漢方醫學による體位向上につき衆議院豫算委員會に於て厚生相に質問。二月八日、同氏、大陸醫務長と皇漢醫學に就き柳川與亞院總務長官に質問。

二月三日、外務省と與亞院の所管權限を外相議會に於て明確にする。二月五日、與亞院連絡部を北京天津、厚和、上海に設置し主として文化關係を擔當することに決定せらる。

二月二日、平沼首相は議會に於て、支那に於ける新秩序の建設、即新體制の完成の爲には三民主義の是正の必要あるを力説す。

二月二日、板垣陸相、有田外相は議會に於て現在の段階に於ては兵を以てするのみでなく民心を把握を痛感し、對支政策は民心把握に歸し、その政策の使徒たるべしと強調す。

創刊號を出して多忙の思ひが消えない間に早くも第二號を御手許に差上ることになりました。協會本部自體の運動は其後着々陣容を整ひ運動も進展して居ります。地は誌面により御覽の如くです。地方在住の方々の連絡が、期待程になかつたことは稍遺憾に存じます。

東亞の新秩序の建設といふことが未だ具體的目標になつて居りませぬ今日此際我猪野毛代議士が愛國の熱情を傾けつゝ、漢方醫學の復興と、大陸醫務の建設工作に於ける地位及其最有效なる方法について、國民の意志を代表すべき議會に於て闡明せられたことは洵に多とすべきであります。

我國家の前途を眞に洋々たる前途に立たしめんとする人々、殊に戦野に馳驅し、或は困難なる宣撫建設の仕事に没入したる人々の意見、或は後方において、物資精神の總動員等に献身の努力を傾ける勝れた人々の間には東亞新秩序建設の爲にはどうしても國內革新を斷行しなければならぬといふ意見が澎湃として起つて居ります。

即ち戰勝者の優越感と支那の現地及民衆を稍輕蔑するが如き心構を以て、事に當らんとする人々を取つては、我々が今漢方醫學による日支提携をとへる眞意は理解出来ない。従つて眞實の建設は相互の理解と尊敬と信頼とに在る等といふことも勿論理解出来ないであらう。だから國內の革新とは斯くの如き人々の認識の是正といふことに始まる。そして哲學的にも政治的にもその他あらゆる社會的生活に於て、新興支那の人々と共に西歐の諸思想諸支配と戦つて行き得る開明なる社會人たらしむるに在る。

右の如き理想の第一歩が我々敬すべき猪野毛代議士及柳川與亞院總務長官の間に交はされた質問應答の間は、その鮮明の第一頁を披かれたるは特に印象すべきことでもあります。

廣瀬厚生相の答辯は大臣が、前述べたる様な範疇の人ではないかを疑はしめて遺憾。

東亞醫學協會の例會は本誌の公啓を以て御通知に代へます。何卒そのおつもりで奮つて御出席下さい。

拓殖大學漢方醫學講座は年々盛になつて居りますが、漢方醫學の重要性が最近特に問題化しつゝ、あります爲、今年には既に數名の申込がありました由、併し我々の理想としては申越多數にて收容しきれぬ程になり、日本中の醫師が、數々に漢方医学の何たるかを知るに至るが望みます。何卒一層諸方に御吹聴下さる様お願ひ致します。

本協會の振替口座は東京一一九四三〇番に決定致しました誌代お拂込等に御利用下さい。